

「その旗印の下に五人は集っているのだという。」

巢鴨善	男	グリーン
蛭川諭吉	男	レッド
加賀御幸	女	ブルー
神愛子	女	イエロー
辻村正義	男	ピンク
財前晴香	女	機関紙「ジャーナル新世界」編集部員
黒岩俊臣	男	機関紙「ジャーナル新世界」編集部員
安西さくら	女	風来軒の看板娘
迫祈	女	敵

● 1場

財前が現れる。

財前 激化する昨今の争いに終止符を打たんとするべく、今、四人の戦士が立ち上がる！ 一名の死者を出した「八王子の悲劇」から早五年、忘れた者はいないであろう、四人の英雄。今、彼らの軌跡を改めて辿ってみたいと思う。……蛭川諭吉。切り込み隊長。二挺拳銃が今日も火を噴き、敵は一人も逃がさない！

蛭川 「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる！ 赤レンジャー！」

蛭川、ポーズ。

財前 ……加賀御幸。メカニック。整備から情報戦まで幅広く担当する、裏工作のプロフェッショナル！
加賀 「レストレスレッグス、青レンジャー！」

加賀、ポーズ。

財前 ……神愛子。交渉人。対外的な活動の一切を受け持つ、このチームの生命線！
神 「涙の落ちる音は聞き逃さないわ！ 黄レンジャー！」
神、ポーズ。

財前 ……巢鴨善。全ての指揮を司る最高のリーダー。彼の存在なしにはこのチームは語れないだろう。
巢鴨 「天網恢恢疎にして漏らさず！ 緑レンジャー！」

巢鴨、ポーズ。

巢鴨 四人揃って！

四人 「秘密戦隊リフュージャー！」

財前 これからも数多の敵と戦う彼らに、神のご加護があらんことを……。

ラジオからラジオ体操の音楽が流れてくる。

巢鴨、蛭川、加賀、神、ラジオ体操をし始める。

神 珍しかったね。

蛭川 確かに。

加賀 なにが？

蛭川 腹でも壊したんじゃないか。

神 かもね。

加賀 誰が？

巢鴨 黒岩だろう。

神 いなかったですよ。ね。
加賀 ああ、一人立ちですって。
神 財前ちゃん？
加賀 はい。初めてだって。
巢鴨 へえ。
神 ちよつと緊張してたもんね。
加賀 そうですね。
蜷川 神。
神 なに。
蜷川 次の訓練って、
神 逮捕術。
蜷川 サンキュー。
加賀 わたし、あれ苦手なんですよねえ。
神 加賀もやるの？
加賀 もちのろん。
蜷川 もちのろん。
加賀 は？
蜷川 なんでもねえよ。
神 メカニックなのにねえ。
巢鴨 基礎を疎かにするなよ。
加賀 わかってます。
蜷川 体は資本だからなあ。
巢鴨 その通り。わかってるじゃないか。
蜷川 そりやもう。
巢鴨 お前だけ一周増やしてやろう。
蜷川 嬉しいなあ……。
神 あ、そうだ。加賀。
加賀 はい。
神 三時から空いてる？
加賀 から？

神 うん。夕方まで。
巢鴨 新人か。
蜷川 ついに？
加賀 本当ですか！
神 とりあえず顔合わせって。
加賀 なんかどきどきしてきた。
蜷川 大袈裟だな。
巢鴨 頑張れよ。
加賀 はい！
深呼吸。
ラジオ体操が終わり、四人、ストップモーション。
● 2場
黒岩、現れる。
黒岩 書けたか？
財前 黒岩さん黒岩さん！
黒岩 うるせえよ。
財前 やつとですよ、やつと！
黒岩 うるせえって。繰り返さなくてもわかる。
財前 繰り返すのは黒岩さんでしょ。
黒岩 うるせえ。
財前 凶星つかれたからってそれはずるいですよ。
黒岩 いいから原稿見せろ。なんのためにたっぷり時間やったと思
ってんだ。
財前 恥ずかしいです。
黒岩 ラジオよりも？
財前 あれは勢いで突っ走れるから……。

● 3場

とある一室。

蜷川と加賀が椅子に座っている。
加賀は本を読んでいて、蜷川は一人でオセロ。

安西 おじゃまします。

安西、現れる。

安西 こんにちは、風来軒です。

蜷川 あれ？

加賀 わたしです。

蜷川 まだなの？

加賀 そうなんです。食べるタイミングなくって。

安西 すいません、遅れちゃって。

加賀 いえ。

安西 道が混んで、だめですね。

加賀 渋滞？

蜷川 事故なんかありました？

安西 工事です。拡張工事やってるんですよ。

蜷川 ああ。

加賀 どこですか？

安西 うちの前の通り。ほら、一車線を二車線にするっていう話で。

加賀 へえ。
ご注文の餃子と半ライス、あと杏仁豆腐です。

安西 ありがとうございます。

加賀 どうします？ 向こうに置いときますか。

安西 あ、大丈夫です。

加賀 わかりました。

安西

黒岩 取材記事だって初めてじゃないだろ。

財前 でも、それは黒岩さんとだったじゃないですか。

黒岩 まあな。

財前 黒岩さんがメインで、わたしがサブで。やっぱり違いますよ。

黒岩 初、一人。

財前 はい。

黒岩 どうだった。

財前 やらなきゃいけないことが多くて。

黒岩 だろう。

財前 てんてこまいでした。

黒岩 俺の凄さが少しはわかったか。

財前 はい。

黒岩 殊勝で結構。

財前 こけこっこー。

黒岩 ……。

財前 ……。

黒岩 財前。

財前 すいません。

黒岩 (原稿を読んで)「四人の戦士が立ち上がる」は違うな。あいつらの活動歴は長い。ニュアンスは異なる。

財前 はい。

黒岩 あと、「今」って、一文で二回使ってるな。気持ち悪いから直せ。

財前 はい。

黒岩 あと、写真と文章の配置なんだけど……。

財前

二人、去る。

蜷川 いったも喰ってんな。

加賀 なにを？

蜷川 杏仁豆腐。

加賀 そうですかね。

安西 確かに。お口に合います？

加賀 おいしいですよ。普通のよりミルクっぽさがあつて。

安西 自家製なんです。

加賀 どうりで。

安西 今度レシピ教えますよ。

加賀 いいんですか？

安西 はい。

加賀 あ、でもなあ。

安西 どうしました？

蜷川 料理しないんですよ、こいつ。

加賀 します！ してます！

蜷川 だっけ？

加賀 計量ができないだけで。

安西 そんな難しくありませんよ。今度紙に書いてもつてきますから。

加賀 秘伝とかじゃないんですか。

安西 あはは、大袈裟。

加賀 頑張ってみます。

安西 応援してます。それじゃ、わたしはこれで。またのご利用を
お待ちしております！

安西、去る。

加賀、雑誌を読みながら食事を始める。蜷川は引き続きオセロ。

加賀 ……。

蜷川 ……。

加賀 ……。

蜷川 行儀悪いぞ。

加賀 ささつと食べちゃうんで。

蜷川 最新号？

加賀 (雑誌を見て) ああ、そうですね。

蜷川 次読まして。

加賀 いいですよ。わたしのじゃないですけど。

蜷川 あ、そうなの。

加賀 はい。

蜷川 聞き損。

加賀 聞き損とかあるんですか？

蜷川 あるよ。

加賀 聞き得も？

蜷川 ある。

加賀 うっそだあ。

蜷川 えっ？

加賀 え？

蜷川 ……。

加賀 ……。

蜷川 うっそー。

加賀 は？

蜷川 なんでもねえよ。

加賀 見せませんよ。

蜷川 お前のじゃねえんだろ。

加賀 まあ。

蜷川 「隠れた名店ぶらり旅」って載ってる？

加賀 じゃないですか？ 連載企画だし。

蜷川 財前がうまそうに飯を喰う女なんだよなあ。

加賀 ですね。

蜷川 黒岩も写真の腕、いいしな。

加賀 次々と流行ってるって聞きましたよ。

蜷川 俺も聞いた。行った店がだろ。
加賀 福の神ですかね。
蜷川 どうかなあ。
加賀 ラーメン屋、古着屋、雑貨屋……。
蜷川 本屋に喫茶店もな。
加賀 あ、わたしこの間行きましたよ。
蜷川 え？
加賀 そこ。
蜷川 そこ？
加賀 はい。確かにおいしかったです、ブレンド。
蜷川 はあ。
加賀 でも、店長は言うほどイケメンでもなかったような……。
蜷川 どこ？
加賀 喫茶店。
蜷川 よく行くの？
加賀 え？
蜷川 喫茶店。とか。
加賀 ああ。
蜷川 なんかが流行ってる？ じゃん？ よくわかんないけど？
加賀 ら、あれ。なんだ、その、ホットケーキみたいなの。
蜷川 パンケーキ？
加賀 あ、そうそう。
蜷川 別に、普通ですわねえ。
加賀 普通。
蜷川 はい。
加賀 普通か。
加賀 普通です。
加賀 蜷川さんはいかないんですか。
蜷川 いかねえなあ。男一人じゃ難しい。
加賀 神さんは。

蜷川 あいつと喫茶店で何を語らえつつーんだよ。
加賀 ……愛、とか。
加賀、変な笑い。
蜷川 恥ずかしがんなよ。
加賀 がってないです！
蜷川 別に付き合ってねえよ？
加賀 本当に？
蜷川 そんなじゃねえんだよなあ。
加賀 そうは見えないですけど。
蜷川 付き合いは、そりゃ長いけど。
加賀 らしいですね。
蜷川 昔はあっちゃん、へーくんって呼び合ってた。家が隣だったから。
加賀 へーくん？
蜷川 「変な奴」のへー。
加賀 そんな子供のころから……。
蜷川 そう、変な奴だったんだ、俺。
加賀 変わらないんですね。
蜷川 うん。だからいじめられもした。
加賀 え。
蜷川 ガキ大将に目をつけられてさ。体のでかいやつ。そいつもみんなからはあっちゃんって呼ばれてた。あっちゃんが、俺のどこを気に入らなかつたか、あのときはわからなかつたけど、きつとあっちゃんのが好きだったんだな。あっちゃんは確かに人気者で、あっちゃん以外にも、あつくんとか、あつさんとか、あつ太郎とか、あっちゃん以外にも、あつくんとか、あつがあっちゃんを狙ってた。
加賀 待って。ちよっと待ってください。

蜷川 なに。
 加賀 「あ」？
 蜷川 そういうクラスだったんだよ。
 加賀 本当ですか？
 蜷川 本当だよ。
 加賀 ……。
 蜷川 信用ねえなあ。神に聞いたっていいぞ。
 加賀 蜷川さんはナチュラルに嘘をつきますからね。
 蜷川 しかも、どうでもいいやつをな。
 加賀 自覚あるならやめてください。
 蜷川 考えとくよ。
 加賀 もう。
 蜷川 お前すぐ騙されるんだもんなあ。
 加賀 そうですかね。
 蜷川 悪い男に気をつけろよ。
 加賀 (蜷川を見て) 気を付けます。
 蜷川 (加賀のしている方へ視線をやって) ……？
 加賀 悪人じゃないんですけどねえ。
 蜷川 騙されるほうが悪い。
 加賀 詐欺被害者の目の前で言うてください。
 蜷川 だから、言ってんだよ。
 加賀 (自分を指さす)？
 蜷川 (加賀を指さす)
 加賀 いつ？
 蜷川 人生にはな、知らないほうがいいってことも、沢山あるんだ。
 加賀 教えてください。
 蜷川 (格好つけて) あるんだぜ？
 加賀 は？
 蜷川 なんでもねえよ。

巣鴨がやってくる。
 巣鴨 お疲れ様。
 加賀 お疲れ様です。
 蜷川 珍しいですね、この時間に来るの。
 加賀 本当だ。
 巣鴨 いや、新人の顔を見ようと思ったんだが。
 加賀 あ、まだ来てないです。
 蜷川 神が連れてくるっていう話でしたよね。
 巣鴨 ああ。三時と言っていたな。
 加賀 もうすぐ来ますって。
 巣鴨 ジャーナルのやつらは来たか？
 蜷川 来てないですよ。
 加賀 財前ちゃんとなにか？
 巣鴨 いや、黒岩のほう。
 蜷川 どうせ財前も来ますよ。
 加賀 仲良いですよね。
 蜷川 親鴨子鴨。
 加賀 なんですか、それ。
 蜷川 わかんない？ 後ろをついてくんだよ。
 巣鴨 ずっと黒岩が世話していたから。当然だろう。
 蜷川 お前と俺みたいなもんだ。
 加賀 は？
 蜷川 お前、世話されるほう。俺、世話するほう。
 加賀 親鴨子鴨？
 蜷川 そう。
 巣鴨 なんだ、お前ら鴨だったのか。
 加賀 鴨は巣鴨さんでしょう！
 蜷川 (笑う) 鴨だらけだ。
 加賀 これからはわたしも世話する側に回りますから！

巢鴨 そうだったな。

加賀 頑張ります。

巢鴨 「無知の知」。

蜷川 ソクラテス？

巢鴨 ああ。知っているだろう。

加賀 そりゃ、名前くらいは。

巢鴨 教えることは、教わることよりもずっと難しい。自らの無知

加賀 を知り、より高みに上るといい。

はい。いい先輩になりたいと思います。

神、現れる。

神、

神 なかなかいい言葉が聞こえたけど？

加賀 神さん！

蜷川 おっつー。

神 あんたエアコン消さずに出てったでしょ。

蜷川 消したよお。

神 消えてなかった。

巢鴨 おい。待たせてるんじゃないのか？

神 あ、すいません。そうでした。

加賀 後輩ですよ、後輩。

蜷川 消したはずだけどなあ。

巢鴨 ついに五人だな。

加賀 そうですね！

神 よし。じゃあ、入ってきていいよ。

入り口から辻村が入ってくる。

神 彼が今日付けで「秘密戦隊リフュージャー」に配属となった
……。

辻村 辻村正義と言います！ 以後、よろしくお願いいたします！

加賀 わたしは加賀。加賀御幸。よろしくね。

蜷川 蜷川。

神 辻村君の指導係は加賀ちゃんにお願いしてるから。

辻村 よろしくお願いします！

神 辻村くんには、これからここ、本部基地での活動を通して、

一流のヒーローになってももらいます。

辻村 よろしくお願いします！

蜷川 初々しいなあ。

辻村 蜷川さんよろしくお願いします！

蜷川 ああ、うん。

辻村 はい。よろしくお願いします！

蜷川 わかった、わかった、もういいから。

辻村 あ、すいません！

神 蜷川は赤レンジャー。

蜷川 「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる！」……赤レンジャー！

蜷川、ポーズをとる。

神 加賀は青レンジャー。メカニックも兼ねてる。

加賀 「レストレスレグス」……青レンジャー！

加賀、ポーズ。

神 で、私が黄レンジャー。蜷川とは同期、加賀とは一期先輩に

なるのかな。

辻村 赤レンジャーの蜷川さんに、青レンジャーの加賀さんに、黄

レンジャーの神さん。はい、覚えました！

蜷川 (ポーズをとったまま) お前ポーズとらないのかよ。

神 嫌よ、疲れるもん。

加賀 そりやないですよ神さん！

神 わたしを含めた三人は下っ端。で、この人がリーダーの……。

辻村 巢鴨さんですよ。

神 あ、知ってるんだ。

辻村 はい！ 特集記事で何度か目にしました！

巢鴨 少し照れるな。

加賀 いいじゃないですか！ 喜びましょうよ。

巢鴨 巢鴨善。善悪の「善」だ。色は緑。……。「天網恢恢疎にして漏らさず！ 緑レンジャー！」

巢鴨、ポーズ。

辻村 おお！

辻村、拍手。

神 そんなに？

加賀 こそばゆいですね。

巢鴨 俺たちはまだ、大したことはできていないぞ。

辻村 そんなことないです。俺、子供のころから戦隊ヒーローに憧

れてて、いや、ただのミーハーってつもりじゃ全然ないんで

す、真面目にこの国のためになることがしたいっていうか、

大事な人とか守れたらいいなってずっと思ってた、だからテ

ンションあがるっていうか、凄く嬉しいっていうか、テンシ

ョンあがるっていうか！ テンションっていうか！ あ、す

いません！ 勝手に喋って！

加賀 熱意は伝わってきたよ。ですよ。

巢鴨 ああ。

神 これからよろしくね。

巢鴨 「少年よ、大志を抱け」。

辻村 え？

巢鴨 クラーク博士。ボーイズ・ビー・アンビシャスのほうが通り

がいいか？

辻村 いえ、知ってますけど……え？

巢鴨 俺は過去の偉人の言葉から沢山のものを得た。きみもそうす

るといい。「昨日から学び、今日に生き、明日に期待する」。

人間とはそういう生き物だ。

加賀 それは誰の言葉なんですか？

巢鴨 ……スノーピーだ。

辻村が呆然としている。
巢鴨、去ろうとして、

神 どうかしましたか？

巢鴨 黒岩に連絡しようと思っただけ。

蛭川 言ってみましたね。

神 あ、取材か何か？

巢鴨 らしい。

● 4場

財前 そんなお堅いこと言っただうするんですか！

黒岩 自分を弁えろ、自分を。

財前 だって誰も損してませんよ。

黒岩 今は、だ。

財前と黒岩、現れる。

財前 どのみちここまで反響あっちゃ、勝手に辞めるわけにはい

かないでしょう。

黒岩 わかっているよ。わかっている。

財前 上の説得はどうするんですか？

黒岩 やるよ。俺がやる。蜷川。

蜷川 なんだ。

神 相変わらず騒がしいなあ。

黒岩 久しぶり。

蜷川 おう。

加賀 財前ちゃん、元気だった？

財前 当たり前ですよ！

巣鴨 時間ぎりぎりじゃないか。

黒岩 ぴったり、と呼んでもらいたいもんです。

財前 だからお堅すぎるんですってば。

蜷川 黒岩だけにな。

加賀 は？

蜷川 なんでもねえよ。

①

黒岩 今回の内容はメールでお伝えしたとおりです。広報に乗せる

記事で、今後の活動への意気込みですとか、社会情勢への懸

念、あるいは読者へのメッセージ、そう言ったものをお話し

ていただければと思います。

巣鴨 編集は効くんذار？

財前 はい。

黒岩 発行前に目を通してもらいますよ。

巣鴨 わかった。喋るのは得意じゃないからな。

財前 気楽にお願いします。本音でいいですよ。あんまりまずかつ

たら、こっちでうまくごまかしちゃうんで。ね？

黒岩 まあそういうことです。

②

辻村 あの、あちらの二人は？

神 アングラ雑誌記者。別組織だけど、よくあうことになると思

うよ。

蜷川 「ジャーナル新世界」。

辻村 って雑誌？ ですか？

蜷川 そう。

神 聞いたことない？

辻村 はい。

神 やっぱり。

蜷川 「FMファンファン」は？

辻村 ラジオですよ。名前だけなら。

蜷川 そっちが本業。というか、親会社というか。

神 幹というか本体というか？

辻村 へえ。そんなところからも取材に。

神 うん。

辻村 やっぱり有名なんですね。

神 リーダー？

蜷川 そりゃあな。

黒岩 財前。

財前 はいはい。

インタビューの準備が終わったようである。

蜷川 始まるみたいだぞ。

加賀 しっ。

四人、黙る。

財前 巢鴨さんは（戦隊名）のリーダーとして、いまや警察や公安

関係者からも一目置かれていたとのことですが？

巢鴨 基本は愛と勇気だ。義を見てせざるは勇無きなりつてな。

財前 大事なことですもんね。

巢鴨 ああ。困っている人、苦しんでいる人を、このまま見捨てる

わけにはいかない。

財前 社会的弱者の救済、ということでもよろしいでしょうか。

巢鴨 そうだな。「助ける」ではなく、「救い」たい。

財前 ……？ すいません、それはどういう。

巢鴨 「助ける」は一時しのぎに過ぎないが、「救う」は根本的な解

決を意味している。

財前 なるほど。

巢鴨 アウン・サン・スー・チーの語録を読んでおくといい。

財前 ありがとうございます。時事についてお聞きしますが、最近

のテロ活動激化に関しては、どうお考えでしょうか。

巢鴨 そうだな。五年前の「八王子の悲劇」以来、追隨してるやつ

は多いように感じるが。統計的な話はともかく…そのあたりは財前、お前の方が詳しいだろう。

財前 そうですね。まとまりが出てきたというか…。

黒岩が「話を戻して」とジェスチャー。

財前 巢鴨さんは、自らの正義を貫く際、どんなことを心に置いて

ますか？

巢鴨 悩まないこと。迷わないこと。逃げないこと。目の前で泣い

ている人がいたとしたら、そんなことできるはずがない。

財前 思ったままに？

巢鴨 ああ、動こうと、そう決めている。

神は読書をしている。

蛭川、だんだんと暇を持って余して、

蛭川 仲良くなるうぜ。

辻村 ？

蛭川 実はさ、男の後輩が欲しかったんだよね。

加賀 蛭川さん。

蛭川 ま、ま。怒るなよ。

神 私は嬉しかったけどなあ。

加賀 やっぱいい先輩は言うことが違うなあ！

巢鴨、黒岩、財前が加賀を見ている。

加賀、なんでもないとジェスチャー。

加賀 蛭川さん。

蛭川 俺なんもしてねえよ。

加賀 わたしは非常に悲しんでいるんですよ？

蛭川 タッチ。

神 やだ。

蛭川 俺とお前の仲じゃねえか。

神 親しき仲にも？

蛭川 礼儀あり。なるほど。

加賀 辻村くん、こんな男の言うことを聞いてたら、墮落の始まり

だよ。

辻村 あ、はい。

蛭川 はい？

辻村 あ、いいえ。

加賀 わたしと仲良くしよう。

辻村 あ、はい。

蛭川 俺とは？

辻村 あ、いいえ。

神は読書をしている。

蛭川 いいえ？
辻村 あ、はい！

三人、辻村を見ている。
神、なんでもないとジェスチャー。

神 ご趣味は？
辻村 え？

神 雑談。趣味は？
辻村 ビデオ鑑賞ですかね。
加賀 ビデオ？ 映画じゃなくて？
辻村 特撮が好きなんで、自分……。

蛭川 今はなにレンジャーだっけ。
辻村 「宇宙戦隊コスモファイブ」ですね。
蛭川 へえ。

辻村 地球を侵略しに来た悪の組織「ダークマター」と、銀河平和パトロールの「コスモファイブ」の戦いを描いてるんですけど、単にそれだけに終始してないっていうか、ほら、悪の組織の会議風景って絶対に映るじゃないですか。そのシーンが子供向けじゃないくらいにリアルで、ダークマター側にも実は事情があつて、荒廃したもとの惑星を捨てて自然の豊かな地球にやってきたわけなんですけど、やっぱり故郷を捨てた葛藤つてのが敵にもあつて、

全員 ……。
辻村 あ、すみません……。
蛭川 凄く熱だな。
辻村 ずっとです。十五年くらい、かな。
加賀 「消火戦隊アンチファイアー」はずっと見てた。
辻村 俺も見ましたよ。色々衝撃でした。
蛭川 延焼を防ぐために、隣の建物をぶっ壊すやつだろ？

辻村 あ、そうです。
神 油田にダイナマイトぶちこんだのもそれ？
辻村 でもあれはちゃんと化学的根拠のあることですし、そのあたりの考証はきちんとやっただうえで作品作りに臨んだと監督のコメントにも書いてありました。単に子供向けの娯楽作品だからと曖昧に作るのではなく、だからこそ子供たちの教育に繋がるようなメッセージ性、それにどう立ち向かうか

つてのを落とし込む力量つてのが今の時代にも引き継がれるべきだと思うんですよ！
……。
辻村くん。
辻村 すいません……。
蛭川。

蛭川 俺なんもしてねえよ！
神 ごめんね、騒がしくつて。
黒岩 いや、大丈夫だよ。こんなところでやるほうが悪い。
財前 そうだそうだ！
黒岩 財前。

財前 お隣のお部屋をお借りしてもおよろしいでございますか？
神 おつけー。勝手に使っちゃつて。
巣鴨 いいものを持っていく。
辻村 本当、すみません。
黒岩 いいっていいって。
財前 ね、ね。

財前 はい。
辻村 オタクなの？
財前 写真とっていい？
辻村 え？

財前、辻村の写真を撮る。

財前 じゃあねー。

黒岩 悪い、もうちよつと巣鴨さん借りるから。

神 わかった。

黒岩と財前、去る。

巣鴨、去りながら、

巣鴨 辻村。

辻村 はい。

巣鴨 「お前の道を進め、人には勝手なことを言わせておけ」。

全員 ……。

巣鴨 ダンテの言葉だ。きみの中の正義に期待している。

巣鴨、去る。

辻村 ……凄いい人ですね。

加賀 オーラがあるよね。

神 ずっとあんな感じだからね。

辻村 神さんが入ったときから？

神 そうだね。格言とか好きな人だから。

辻村 一番古株なんでしたっけ。

蛭川 俺たちより…五年？

神 七年だったはず。

加賀 あ、神さん。

神 ん？

加賀 名乗りのことなんですけど。

神 ああ、どうするの？

加賀 本人と相談して決めようかなって。

神 うん、いいんじゃない？

辻村 名乗り？

加賀 ポーズの時に言うやつ。

神 ほら、

蛭川 「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる！ 赤レンジャー！」

加賀 「レストレスレッグス、青レンジャー！」

二人、ポーズ。

二人 (神を見ている) ……。

神 みたいな。

蛭川 神。

加賀 神さん！

巣鴨 神？

巣鴨、現れる。

全員 ……。

巣鴨 どうした？

神 いえ。巣鴨さんこそ、どうしました？

巣鴨 お礼と世間話も兼ねて、これから黒岩たちと飯を食いにここ

うってなつたんだけど。

行きます。だろ？

蛭川 お邪魔じゃないなら。

加賀 あ、わたし、後から行きます。

蛭川 どうかしたか？

加賀 ほら、辻村くんに基地のこととか教えなきゃですから。セキ

ユリテイとか。

神 ああ、そうだね。

巣鴨 なら先に行っているぞ。

加賀 すいません。風来軒ですか？

巢鴨 そのつもりだ。変わったら連絡する。

加賀 お願いします。

神 ニラレバ食べたい。

蛭川 レバニラだろ。

神 ええ？

蛭川 いいか、歴史としてはだな、まずレバーだけの炒め物があったわけだ。そこに野菜が入っていくわけだが、最初からニラ

つてわけでもなくて。

神 長くなるからいい。

蛭川 おいおい。

二人、去る。

巢鴨 最初からニラってわけではないのか……。

巢鴨、去る。

● 5場

加賀 ごめんね。

辻村 全然です。

加賀 ぱぱっと片付けて、一緒に行こう。

辻村 いいんですか？

加賀 辻村くんだって一員なんだよ？

辻村 ありがとうございます。風来軒って？

加賀 基地の近くにあるんだよ。中華屋？ 定食屋？ なんていう

辻村 かな。

辻村 あー。

加賀 家族でやっててね、おいしい。

辻村 あの、俺は何をやれば。

加賀 そうだったね。まず、これを渡そう。

加賀、辻村にピンク色のTシャツを渡す。

辻村 なんですか、これ。

加賀 サイズあうかなあ。着てみて。

辻村 ……あの。

加賀 ピンク。

辻村 あ、はい。

加賀 ピンクレンジャー。

辻村 ピンクレンジャー、ですか。

加賀 そう。正確には桃色。桃レンジャー。

辻村 女性じゃなくてもいいんですね。

加賀 特撮とかだとそうだけだね。うちでは、男女平等。

辻村、着る。ワンサイズ小さい。

加賀 いいんじゃない。

辻村 えっ。

加賀 ムキムキマツチョマンみたい。

加賀、本などを片付け始める。

辻村 あ、俺も手伝います。

加賀 ありがとうございます。わかるのだけでいいから。

辻村 はい。

二人、片付けながら。

辻村 名乗りとかは誰が決めるんですか。

加賀 教育係の一存。

辻村 っことは。

加賀 私。大丈夫だよ。格好いいのつけてあげるから。

辻村 お願いします。

加賀 好きな言葉とかある？

辻村 正義、ですかね。

加賀 正義。

辻村 正義って言葉聞くと、こう、胸の奥があつくなりませんか？

俺の名前、「正義」と書いて「マサヨシ」と読むんですけど、

親に感謝してますもん。

加賀 じゃあ名乗りはそれからだろうか。

辻村 お願いします！

加賀 正義……正義……。

加賀、片付けた本をまた出し始める。
それを読んでいる。

加賀 「ジャステイスマサヨシ」。

辻村 ……。

加賀 (自信ありげに)「ジャステイスマサヨシ」!

辻村 重複してませんか？

加賀 重複ってなに？

辻村 いえ……。

加賀 どう？

辻村 あ、いや、でも、やつぱりあれですよね、こう、「レストレス
レッグス」もそうですけど、語呂って言うんですか？ 口当
たりがいいのがいいなあ。

加賀 口当たり、ねえ。

辻村 五・七・五・七・七みたいな。

加賀 なるほど。

辻村 ……。

辻村、聞こえるか聞こえないくらいの声で、何かを呟いている。

辻村 ……いざ往かん ジャステイスマサヨシ レッツゴー。

加賀 え？

辻村 いざ往かん ジャステイスマサヨシ レッツゴー!

加賀 どうですか!

辻村 それでいいの!?

加賀 えっ、だめですか?

辻村 蜷川さんが「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる! 赤レンジ

ヤー」ってやるでしょ?

辻村 (再現する)「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる! 赤レンジ

ヤー!」

加賀 で、わたしが「レストレスレッグス、青レンジャー」ってや

るでしょ?

辻村 (また再現)「レストレスレッグス、青レンジャー!」

加賀 (なんで再現できるんだ? という視線で見ている)…… 神

さんが、

「涙の落ちる音は聞き逃さないわ! 黄レンジャー!」

加賀 (なんで知っているんだ? という視線で声も出ない)

辻村 (勝手に)「天網恢恢疎にして漏らさず! 緑レンジャー!」

加賀 きもっ!

辻村 えっ!?

加賀 あ、ごめん、なんでもない。(気を取り直して)で、その流れ
で辻村君が、

辻村 いざ往かん ジャステイスマサヨシ レッツゴー。

加賀 ……なんか違うじゃん?

辻村 ……確かに。
加賀 五・七・五はだめだね。なんかお葬式っぽくなっちゃう。
辻村 そうですね。
加賀 もっとすばつと言いつけるのがいいなあ。

二人、少し考える。
唐突に加賀が思いついて、

加賀 あ。
辻村 お。
加賀 決まった。これだ。
辻村 なんですか、なんですか。
加賀 シンプル系でいいよね？
辻村 全然大丈夫です！ で！？
加賀 「正義のヒーロー、ジャスティスマサヨシ！」
辻村 ……。
加賀 どう！？
辻村 (絞り出すように) ……すごい、と、思います！
加賀 でしょ！
辻村 凄い重複してませんか。
加賀 重複ってなに？
辻村 ……いえ、なんでもないです。
加賀 あ、もうこんな時間か。急ごう。
辻村 行きます？
加賀 うん。施錠と開錠の方法だけ教えるから。ついてきて。
辻村 はい。

加賀、去ろうとする。
その背中に、辻村。

辻村 加賀さん、一つ聞きたいんですけど。
加賀 なに？
辻村 「レストレスレッグス」ってなんですか？
加賀 さあ？ 横文字で格好いい系って言ったら、蜷川さんがつけてくれた。
辻村 必殺技ですか。
加賀 まあ、私はメカニックだけだねえ。

加賀、去る。

辻村 (携帯をおもむろにいじる) ……むずむず脚症候群は、身体末端の不快感や痛みによって特徴づけられた慢性的な病態である。レストレスレッグス症候群、下肢静止不能症候群ともいう…。

辻村、困惑。

辻村 むずむず脚症候群？

辻村、更なる困惑。

加賀 (声) 辻村くん？
辻村 ……。
加賀 (声) 辻村くん。
辻村 あ、はい、今いきます、今！

辻村、去る。
ラジオが聞こえてくる。
財前が現れる。

財前 皆様、こんにちは。FM「ファンファンファン」が正午をお知らせいたします。「隠れた名店ぶらり旅」、今日は記念すべき第五回目。随分と反響も寄せられているようで、わたし、感激しております！ 本日もご紹介するお店は、駅前目抜き通りの一階、「洋食のナカジマ」さんです。目玉商品は店主自らが調合したスパイスを使っているという、謹製の焼きカレーパン。実はわたし、カレーに目がなくて……おっと涎が、失礼しました。では、これからお邪魔したいと思います……。

財前、去る。

蜷川と加賀が部屋にいる。

蜷川は一人オセロ、加賀はクロスワードパズル。

加賀 ……。

蜷川 ……。

加賀、悩んでいる。

蜷川、気にしつつも声はかけない。

加賀 マーガリンのうち、油脂類が八〇%未満のもの。

蜷川 ファットスプレッド。

加賀 ファットスプレッド……お。

蜷川 ……。

加賀 紅茶の一種。スリランカで、

蜷川 セイロン。

加賀 ……凄いですね。

蜷川 わかんないなら調べろよ。

加賀 それは冒涇ですよ。

蜷川 クロスワードに対しての？

加賀 はい。

蜷川 俺に聞くのはいいの？

加賀 聞いてません。わたしの眩きに対して、蜷川さんが勝手に返

してるだけです。

蜷川 はいはい。

加賀 一九七九年、ナントカ革命。

蜷川 ……。

加賀 ……蜷川さん。

蜷川 おい。

加賀 まあまあ。

蜷川 ニカラグア革命。

加賀 七文字なんですけど。

蜷川 じゃあサンディニスタ革命。

加賀 誰？

蜷川 人民解放戦線の指導者だったっけな。

加賀 なんて知ってるんですか？

蜷川 さあな。

蜷川 ……。

加賀 ……。

加賀、またクロスワード。

加賀 二〇一四年、国内最初のテロ（被害にあった銀行）。

蜷川 「八王子の悲劇」。

加賀 いや、銀行の名前。

蛭川 「八十村銀行」。
加賀 あ、それだそれだ。
蛭川 お前いたよな？
加賀 いましたよ。わたしの初仕事ですもん。
蛭川 覚えておけよ……。
加賀 いや、覚えてたはずなんですよ。はずなんですけどね。なん
でか。
蛭川 ……。
加賀 ……最近うまくいかないですよね。
蛭川 まあな。
加賀 あと一歩つてとところで、いっつも邪魔が入つて。
蛭川 そうだな。
加賀 ……。
蛭川 気にしてんのか。
加賀 してるっていうか……。
蛭川 ……。
加賀 ……。
蛭川 ……。
辻村、やってくる。

辻村 お疲れ様です。
蛭川 おう。
辻村 どうしたんですか、加賀さん。
蛭川 腹痛だったよ。
辻村 え、大丈夫ですか？
蛭川 そつとしとけ。
辻村 はい……。
蛭川 ……。
辻村 蛭川さんはなにやってんですか。

蛭川 オセロ。
辻村 オセロって、あのオセロ？
蛭川 リバーシとも言う。
辻村 いっつもやってますよね。
蛭川 鍛えてる。
辻村 はあ。
蛭川 負けっぱなしは悔しいから。
辻村 誰が強いですか？
蛭川 財前がすげえ強くてさ。
辻村 財前……？
蛭川 ……ああ、そっか。広報担当のさ、女の方。うるさい方。
辻村 この間来てた？
蛭川 そう。
辻村 強いですか。
蛭川 お前、オセロできる？
辻村 まあ。
蛭川 相手になつてくれよ。
辻村 いいですけど、そんな強くないですよ。
蛭川 いいっていいって。俺も強くないし。
辻村 本当に？
蛭川 お前白握っていいから。先手でいいから。
辻村 じゃあ、お言葉に甘えて。

二人、暫しオセロ。

蛭川 なかなかやるじゃん。
辻村 そうですか？
蛭川 筋がいい。
辻村 ありがとうございます。

オセロは続く。

蜷川 オセロって日本発祥だって。

辻村 あ、そうなんですね。

蜷川 知らなかった？

辻村 はい。

蜷川 俺も財前から聞くまではさ、知らなかったんだけど。

辻村 はい。

蜷川 なんか、わかる気がする。

辻村 どのへんが？

蜷川 外国産は殺しっぱなしじゃん？

辻村 殺しっぱなしってなんですか。

蜷川 チェスとかさ、とったら使えなくなるじゃん。でも将棋は自分の持ち駒にしてさ、ほら、捕虜にして生かしておくっていうの？

辻村 ああ。

蜷川 オセロもさ、駒がひっくり返ってさ。白になったり、黒にな

ったり。

辻村 そうですね。

蜷川 (石を打つ) 黒になったり、

辻村 (石を打つ) 白になったり……。

— 加賀、がばっと起き上がって、

加賀 蜷川さん。

蜷川 ん？

加賀 してます。してましたわ、こりゃ。

蜷川 そうか。

辻村 してた？ なにを？

加賀、何かする。
不思議な動き。

加賀 ああー……。

蜷川 汚れるぞ。

加賀 悪の組織なんてぶっ潰れればいいんだ。

加賀、そのまま外に出ていく。

辻村 ……大丈夫なんですか？

蜷川 ああ、頭？

辻村 とか、いろいろ。

蜷川 最近活動がうまくいってないじゃん？ いい感じのところ

邪魔が入ったりしてるし。

辻村 はい。

蜷川 だから。

辻村 なんかできることないですかね。

蜷川 大丈夫だろ。あいつ、落ち込むのも早いけど、立ち直るのも

早い。

辻村 そうなんですか。

蜷川 バカだから。

辻村 素直ですよ。

蜷川 隙あり。

辻村 あ。

蜷川 俺の勝ちだな。

神、現れる。

神 加賀が(やっていた動作に言及する)してたけど。

蜷川 持病。

神 だと思った。
 蛭川 バカだからな。
 辻村 素直でもんね。
 神 頑固なんだから。
 蛭川 ま、傷ついて乗り越えるたびに人は強くなるのである。
 神 巢鴨さん？
 蛭川 格好良くない？
 神 格好いいことを言おうとしている感じが格好悪い。
 蛭川 格好悪い！
 辻村 深いですね。
 神 深くないよ。
 蛭川 格好悪い？ 俺。
 辻村 格好いいと思います！
 蛭川 ほら。
 神 辻村くんはあなたの太鼓持ちじゃないからね。
 蛭川 真面目なときは真面目にやるって。
 神 (辻村に) こんなやつでごめんね。
 辻村 楽しいです。
 蛭川 楽しいだろ。
 神 一人オセロでもしてて。
 蛭川 はいはい。
 辻村 でも、本当ですよ。お世辞とかじゃないです。
 神 ならいいんだけどね。
 辻村 どっか行ってたんですか。
 神 私？
 辻村 はい。
 神 仕事。ネゴシエーターだから、私。
 辻村 ネゴ……？

神 交渉。問題が起きてるところに向かってね、色々話してくるわけ。こうしたらいいんじゃないですか、とか、お手伝いしましょうか、とか。
 辻村 へえ。
 神 今ね、商店街の青年団で、ちょっとデモがあつて。
 辻村 それに？
 神 うん。まあ青年団って言っても三十とか四十のおじさんばかりなんだけどさ。ほら、道路拡張、風来軒も引つかかるあれ。
 辻村 の、デモ？
 神 うん。今はシユプレヒコールだけなんだけど、これからどうなるかもわからないから。
 辻村 道路拡張反対、って？
 神 そう、それ。
 辻村 戦隊としての活動ですよ？
 神 多分ね。
 辻村 俺たちもいづれ関係するってことですか。
 神 まあ、今は巢鴨さんと打ち合わせ中で、具体的な話はなーんにも。
 辻村 わかりました。覚えておきます。
 神 そうだね、それくらいがいいよ。

● 7場

財前と黒岩がやってくる。
 財前 こんにちはー。
 黒岩 邪魔するぞ。
 財前 えっ、邪魔しちゃうんですか？
 黒岩 (無視して) よう。

神 あれ、今日だっけ。
 黒岩 今日だよ今日。なあ。
 財前 そうですよ。
 蛭川 どうした？
 黒岩 あ、お前忘れてたな。
 神 あはは……。
 辻村 なんがあるんですか？
 黒岩 加賀が転がったから変だと思っただよ。
 財前 わたしも思いました。転がってるなーって。
 蛭川 どうした？
 黒岩 いや、写真撮りに来たんだよ。折角五人そろったんだから、
 全員でポーズとってるところが欲しいって。
 辻村 ポーズ？
 財前 そう。いっちょ恰好いいのを頼むよ。
 辻村 なんか、恥ずかしいなあ。
 財前 ……誰！
 黒岩 こないだいだろ。
 財前 いましたっけ？
 辻村 あ、はい。いました。写真撮られました。
 財前 ……え？
 黒岩 抜け落ちてるな。
 財前 忘れてやがる。
 黒岩 一週間前とかだぞ
 財前 覚えてないっす！
 黒岩 お前馬鹿だもんな。
 財前 はい、そうです！
 黒岩 忘れてたわ。
 財前 やーい、ばーかばーか！
 黒岩 ……。
 財前 ……。

黒岩 財前。
 財前 あ、すいません調子に乗りました本当。
 蛭川 多分辻村もお前らのこと知らないと思うぞ。
 黒岩 ああ、そうか。挨拶もしてないな。
 蛭川 こいつらはアングラ雑誌の記者。
 黒岩 アングラって言うな。
 財前 実際アングラですし？
 黒岩 ラジオもやってるぞ。
 蛭川 アングララジオ。
 財前 公共の電波に乗ってますー。
 黒岩 それなりに有名になったと思うけどな。
 財前 わたしのおかげ？
 黒岩 そうそう、お前のおかげ。
 財前 なんですかそれ、つまんない。
 蛭川 前にも少し説明したよな。発行元。
 黒岩 名乗りが遅れて悪かった。「ジャーナル新世界」の、
 財前 ブラックロックです！ よろしく！
 全員 ……。
 黒岩 ……で、こいつが、
 財前 ゴールドラッシュです！ よろしく！
 全員 ……。
 蛭川 なんとかりバーです、よろしく。
 神 えっ。
 蛭川 だって「蛭」ってわかんねえし。
 神 そういうことじゃなくて。
 辻村 なんとかビレッジです、よろしく。
 財前 なんとかビレッジくんだね！ 覚えた！
 辻村 あ、ありがとうございます。
 全員 (神を見る) ……。
 神 ゴ、ゴッドです。よろしく……。

全員 おお……。

拍手。

安西、現れる。

安西 ちわーす、風来軒でーす。
全員 ……。

安西、つられて拍手。

安西 なにやってんすか？

財前 拍手！

安西 いや、それは見てればわかるんすけど。

蜷川 (黒岩へ) 何しに来たんだよ。

神 (同) 何しに来たの？

財前 (同) 何しに来たんですしたっけ？

黒岩 何しに来たって、そりや……。

四人、辻村を見る。

辻村 ……えっ？

辻村、困惑。

辻村 写真を撮りに来たんですよ。

黒岩 それだ。

財前 それですね。

神 誰か出前頼んだ？

蜷川 あ、俺と加賀。

神 加賀ア？

安西 あ、はい。餃子セットと杏仁豆腐、カレーで一四七〇円になります。

蜷川 平気だろ。伸びるものもないし(お金を渡す)。

安西 ありがとうございます。

蜷川 喫食室？

安西 あ、こっちで食べますか。

蜷川 や。

神 辻村くんは？

辻村 ああ、俺食べてきちやいました。

神 そうなんだ。

辻村 すいません。

蜷川 そんなことで謝るなよ。

辻村 そうですね。

蜷川 じゃあ俺たち飯食ってくるけど、あんまり新人いじめるんじやねえぞ。

黒岩 そんなことしねえよ。

財前 そうですよ。

黒岩 俺は。

財前 失礼な！

蜷川と神、去る。

● 8場

安西 いつもありがとうございます。

財前 そんな畏まらなくても。

安西 お客様は神様なんです。

黒岩 よ、神様。

財前 神様は神さんですよ。

黒岩 神も神様か。

財前 ゴツド・イズ・ゴツド。
 黒岩 (笑う) ばか。
 辻村 ……。
 財前 黒岩さん。
 黒岩 なんだ。
 財前 すつげえ変な目で見てる人がいます。
 黒岩 変なやつがいるからじゃねえの。
 財前 (黒岩を見て) ……本当だ。
 黒岩 騒がしくして悪いね。
 辻村 あ、いえ。
 安西 よくこの辺りには来られるんですか？
 黒岩 ええ、まあ。
 財前 取材も多いので。
 安西 取材って、巢鴨さんたちの、ですか。
 財前 はい、
 黒岩 (割り込んで) あいつら、ああ見えて実は有名人なんです。
 安西 あ、そうなんですか。
 黒岩 はい。そうは見えないでしょう。
 安西 (辻村を窺って) あはは…。
 黒岩 知る人ぞ知る、ってやつで。
 辻村 別に見てくれで仕事してるわけじゃないですから。
 黒岩 だいぶ期待してんだから。応援もたくさんしてるだろ。
 辻村 まあ、そんな感じはしてます。
 安西 何度もここには出前してますけど、何をしてるかまでは聞いてなかったですねえ。
 辻村 あ、そうなんですか。
 黒岩 おいしかったですよ。
 安西 え？
 黒岩 風来軒さん。(財前に) な？
 財前 はい！ おいしいです！ 特にあの杏仁豆腐は絶品ですよ！

安西 ありがとうございます。
 財前 天下獲れますよ！一緒に天下、獲っちゃいますか！
 辻村 一緒に？
 財前 おいしそうに写真撮って、食べる係。
 安西、よろしければレシピ、お教えしますよ。
 財前 いいんですか？
 黒岩 こいつの我がままに付き合わなくてもいいんですよ。甘やかすとつけあがるから。
 財前 黒岩さん？
 黒岩 財前。
 安西 あの、祖父もそちらのほうで、喜ぶと思いますし。色々な人に知っていただいた方が。
 財前 ほら！
 黒岩 わかったわかった。悪かった。
 辻村 俺、この間食べてなかったんですけど、そんなにおいしいんですか？
 財前 口の中でするけるよ。
 黒岩 濃厚なのにくどくない。
 辻村 ラジオで訪問したらどうです？
 財前 ファンファンファンで？
 黒岩 ……あー、うん。
 安西 あの、いつもラジオ聞いてます。
 財前 え、そうなの。ありがとうございます。
 安西 あれってどういう基準でお店決めてるんですか？
 財前 隠れた名店ぶらり旅？
 安西 はい。
 黒岩 まあ、内輪で最近行った店、とか。取材に行った先で聞いてくる、とか。いろいろだな。
 安西 へえ。

財前 一応わたしが表に出てますけどね、本当はあれ、黒岩さんの
 企画なんですよ。
 安西 そうなんですか。
 財前 ね。
 黒岩 最初は独立した企画じゃなくて、地域密着型イベントの一環
 だったんだよ。特にあれだけ人気があったから、上が乗り気
 になつてな。
 財前 わたしも随分有名になっちゃいましたね。
 黒岩 そうだな。次期報道班班長はお前かもな。
 財前 やめてくださいよ、もう。
 黒岩 ……。
 財前 ……あはは。
 黒岩 申し訳ないんですが、取材の依頼は公平性というか、中立性
 というか、公共性を欠きますんで。
 安西 あ、すいません。そういうつもりではなかったんです。
 黒岩 あ、そうでしたか。
 安西 うちもいつまでやれるかわかりませんし。
 辻村 そうなんですか？
 財前 ええ！
 安西 祖父も年ですし、両親も、何が何でも店を守るといふ感じ
 もありませんから。
 黒岩 こちらの早とちりで、申し訳ない。
 安西 いえ、全然。
 財前 今度杏仁豆腐のレシピ、教えて下さい。
 安西 わかりました。すいません、わたしはこれで。
 辻村 お疲れ様です。
 黒岩 御引止めしてすいません。
 安西 機会があったら、ぜひご来店ください。

安西、去る。

財前 黒岩さん！
 黒岩 ああ、確かに俺が悪い。悪かった。
 財前 まだ決まってるじゃないんでしょう！ 決まってるじゃないんです！ 予
 定は未定！ オッケー？
 黒岩 オッケー。わかってるよ。オッケーだ。
 財前 心が籠ってない！
 黒岩 オッケー！
 財前 よし！
 辻村 ……。
 財前 黒岩さん黒岩さん。
 黒岩 なんだ。
 財前 またこつちを変な目で見てるやつがいます。
 黒岩 お前に用だとよ。
 財前 (連呼) 黒岩さん黒岩さん黒岩さん黒岩さん……！
 財前 はい！
 黒岩 オセロやるぞ。
 財前 やったー！
 黒岩 こいつ、オセロやると静かになるからさ。
 辻村 お強いでしたっけ。
 黒岩 よく知ってるね。
 辻村 蛭川さんが。
 黒岩 言ってた？ あ、そう。きっと随分悔しかったんだな。
 辻村 負けたのが？
 黒岩 東大のプライドが許さないんだろ。
 辻村 え？
 黒岩 人は見かけによらないって言うけどさ、蛭川も随分だが、財
 前は詐欺だよ、詐欺。
 財前 ほらほら、やりましょうよ。わたしが後手番でいいですから！

黒岩 はいはい。

二人、オセロに興じ始める。
手持無沙汰になった辻村、何かをしている。
暫し石がひっくり返る音だけが聞こえている。

黒岩 ラジオとか聞く？

辻村、自分に声をかけられたものだと思っていない。

財前 勝負の最中に雑談とは、中々余裕じゃないですか。

黒岩 諦めだよ、諦め。

辻村 (やっと気づいて) えっ？

黒岩 ラジオとかさ、聞いたことある？

辻村 あ、FMの、ですか。

黒岩 そう。月水金でさ、やってるじゃん。やってるんだよ。

辻村 知ってます。

黒岩 (笑う) 聞いてます、じゃなくて？

辻村 あはは……。

財前 (石を打って) 黒岩さんの番ですよ。

黒岩 パス。

財前 (石を打って) 黒岩さんの番。

黒岩 パス。

財前 (石を打って) 黒岩さん。

黒岩 パス。打てるどこねえよ。お前わかってて訊いてるだろ。

財前 ゲームはコミュニケーション。

黒岩 とか言う割には手加減してくれないよな。

財前 一石返しは基本戦略です。

黒岩 バチはあたらないぞ。

財前 獅子は兎を狩るのにも全力を出すって。

黒岩 はいはい、負け負け。

巢鴨、現れる。

巢鴨 お疲れ。

辻村 お疲れ様です。

巢鴨 おいおい、ここはジャーナルの編集部じゃないぞ。

黒岩 お邪魔します。

財前 あ、いい匂い。

巢鴨 やっぱり気づくのが早いな。

黒岩 「洋食のナカジマ」？

巢鴨 ああ。人が多くて大変だった。

財前 もう反響来てますか？

巢鴨 それもある。あとはデモか。

黒岩 デモ？

辻村 道路拡張の？

巢鴨 なんだ、知ってるのか。

辻村 神さんが。

巢鴨 あそこ役所が近いからな。

財前 巢鴨さんも流行りに敏感ですねえ！

巢鴨 共有できるときにするべきだろう。

辻村 それ、有名なんですか？

巢鴨 ラジオで紹介されたんだよ。

財前 紹介しました。

巢鴨 食べるか？

辻村 あとで頂いていいですか？ さつきご飯食べちゃったんで。

巢鴨 お前らは？

黒岩 頂けるのなら、よろこんで。

財前 あー、すいません。わたしパスで。

巢鴨 そうか。

財前 ごめんなさい。辛いので得意じゃないんですよ。

巢鴨 あれ？ ラジオで……。

財前 や、そりゃ営業トークってやつですよ。

黒岩 けっこう演技派なんです。

巢鴨 他の奴らは？

辻村 蜷川さんと神さんは、喫食室で食事してます。加賀さんは……。

巢鴨 加賀は？

辻村 (動作) しました。

巢鴨 なるほど。

巢鴨、一瞬納得したような雰囲気を出すのが、首を傾げる。

巢鴨 ……？

財前 そんなに混んでましたか？

巢鴨 そうだな。昼前に行つて、それでも十人くらい並んでたな。

慌ただしそうに追加で焼いてるのが見えた。

黒岩 いいことだ。いいことじゃねえか。

財前 ……。

巢鴨 これだけ反響も大きいと大変だろう。

黒岩 まあな。大変だよ。

財前 大変じゃありません。

巢鴨 どっちだよ。

辻村 この近くですか？

巢鴨 ああ。

辻村 有名なんですよね。聞いたことなかったです。

巢鴨 これまではそうでもなかったんじゃないかな。

辻村 そうなんですか？

巢鴨 こいつらが紹介した店、どこも繁盛するんだよ。

辻村 凄いです。

黒岩 うまそうに飯を喰う女がいるからな。

財前 黒岩さんのおかげですよ。

黒岩 似合わねエこと言うなよ。

財前 でも。

辻村 風来軒さんも取り上げてもらえばいいのに。

巢鴨 あそこも色々大変だからな。

辻村 いつまで続くか、みたいな話はしてましたけど。

巢鴨 そうか。結局、やめることにしたのか。

辻村 どうですかね。

巢鴨 近くでうまい店を探さにやらんなあ。

辻村 杏仁豆腐の美味しい店？

巢鴨 加賀かよ。

財前 わたしです！

巢鴨 で、お前らは何しに来たんだ？

財前 何しに(来たんですしたっけ?)

辻村 写真を撮りに！

黒岩 そうだ。そうです。ほら、折角五人揃ったんだし、つてこと

で。

巢鴨 ああ、まあな。気持ちはありがたいが、あらかじめアポがあ

ると、お互い楽だろうに。

黒岩 こいつに似てきてしまつて。

財前 えー？

黒岩 思いつきで動くつて言う。

財前 人のせいにならないでください。

● 9 場

蜷川と神、現れる。

神 戻りましたー。

蜷川 まだ戻ってきてねえよ。

神 だねえ。

辻村 加賀さんは、はい。

黒岩 どこ行つてんだ。

神 ちよつと電話してみます。

蜷川 それがいいな。

神 (電話) もしもし、加賀? 今どこにいるの。

巢鴨 カレーパン、いるか?

蜷川 今喰つてきたばかりなんすよ。

巢鴨 うまいぞ。洋食のナカジマ謹製の焼きカレーパンだぞ。

神 洋食のナカジマ?

全員、神を見る。

神 え? 並んでる? なんで? は? やけ食い?

巢鴨 (袋をみせる) ……。

神 ……あるよ。あ。

蜷川 どうした?

神 切れた。

巢鴨 なにやってるんだ、あいつ。

財前 多分走ってますよ。

辻村 走ってる?

財前 うん。

巢鴨 「洋食のナカジマ」だつて?

神 はい

蜷川 つてことは、あれですか。天然のナカジマもいるんですか?

巢鴨 …… (少し考えて) 違うぞ?

神 なに言ってるの。

財前 ……っ!

財前、笑いを堪えている。

神 あれ。

黒岩 あ、ツボに入った。

財前 洋食…天然…くくくっ! くだらない…!!

加賀、現れる。

全員、加賀に注目する。

財前だけは笑いを堪えるのに必死。

加賀 ……。

加賀、獣の眼光でカレーパンを探す。

差し出すように、巢鴨。

加賀、それにかぶりつく。全員、引き続き注目。

満足そうな加賀。全員拍手。

全員 おー。

辻村 ……そういえば、蜷川さん。

蜷川 ん?

辻村 むずむず脚症候群って、なんなんですか。

蜷川 あ、気付いちやった?

辻村 調べたら。

蜷川 いいか、誰にも言うなよ。

辻村 いいんですか?

蜷川 最初は冗談のつもりだったんだよ。

辻村 はあ。

蜷川 もうあとには退けない。

辻村 いや、でも、むずむず脚症候群ですよ? ポーズとって格好

つけながら、「むずむず脚症候群!」って叫んでるんですよ?

蜷川 あんまりむずむずむず言うなよ。
 辻村 蜷川さんがポーズとるじゃないですか。
 蜷川 「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる！ 赤レンジャー！」
 辻村 （加賀の真似をして）「むずむず脚症候群、青レンジャー！」
 神 さつきからどうしたの？
 二人 なんでもありません！
 加賀 洋食のナカジマ。
 神 並んでたんだ？
 加賀 なんてあるんですか？
 巣鴨 俺が買ってきた。
 加賀 さすが！
 黒岩 これで全員揃ったな。
 蜷川 そうですね。
 財前 （笑いから立ち直りかけて）あ、準備しますね。カメラ。
 黒岩 頼む。
 辻村 うまくポーズとれるかなあ。
 神 大丈夫だって。
 辻村 だといいんですけど。
 加賀 何の話です？
 神 写真撮るんだって。
 加賀 写真？
 黒岩 五人揃ってさ、ばっちりキマったポーズが欲しいわけ。
 巣鴨 ジャーナルの表紙を飾ったりするの？
 黒岩 あー、いえ、それはどうですかね。
 巣鴨 アポもなかったもんな。仕事じゃないのか。
 黒岩 難しいところです。
 財前 黒岩さん。
 黒岩 ……。
 財前 仕事です。仕事ですよ。はい、勿論お仕事です。
 黒岩 お前、俺に似てきたか？

財前 どこが。
 黒岩 繰り返すところ。
 財前 親鴨子鴨。
 蜷川 （加賀を指して）子鴨？
 加賀 （蜷川を指して）ええ？ 親鴨オ？
 神 初披露かな？
 蜷川 じゃないか。
 神 四人が長かったもんね。
 巣鴨 五人の方がいいもんか？ いや、ポーズの話でな？
 加賀 そりゃそうですよ。
 辻村 バランスという観点から見ればやっぱり五人がいいですよね。
 加賀 四人だとしてもセンターがいまから。三人だと、ちよつと少ない。画面に華やかさが足りない。でしょう？ ですよ。できるなら五人。いえ、五人でなければだめなんです！
 加賀 いよつ、大統領！
 辻村 （我に返って）あ、すいません……。
 神 いいのいいの。
 蜷川 お前から好きだな。
 神 まんざらでもない顔して。
 巣鴨 シンボルは必要か。
 加賀 また難しいこと言ってる。
 巣鴨 俺たちのポーズを見れば、それだけで安心されるようなヒーロー。それが理想だろ。
 財前 さ、やっちゃってください！
 全員 （蜷川に注目）……。

蜷川、たつぷりともったいつけて、
 蜷川 「悪を打ち砕く炎の拳を見せてやる！ 赤レンジャー！」

蜷川、ポーズ。

加賀 「レストレスレッグス、青レンジャー！」

加賀、ポーズ。

神 「涙の落ちる音は聞き逃さないわ！ 黄レンジャー！」

神、ポーズ。

辻村 「正義のヒーロー、ジャスティスマサヨシ！ 桃レンジャー！」

辻村、ポーズ。

巢鴨 「天網恢恢疎にして漏らさず！ 緑レンジャー！」

巢鴨、ポーズ。

五人 「五人そろって、（戦隊名を叫ぶ）！」

財前が現れる。手にはカメラを持っている。

財前 シャッターチャンス！

財前、五人をカメラで撮りまくる。

財前 いいよいいよ、もつとこつちに視線やって！ ……そう！

セクシー！ 凄いセクシー！ そこ、ちよつと角度つけて…
…いいよ！ もう見惚れちゃう！

財前、叫びながら撮りまくっている。

財前 あ、もつとそこは見下す感じでお願ひします！ 最後に一枚、こつち向いて！

五人、まだポーズをとったまま。

財前 はい、チーズ！

全員ストップモーション。

● 10場

加賀と辻村だけが動き出す。

加賀 キマってたじゃん。

辻村 キマってた？

加賀 ポーズ。

辻村 そうですか？

加賀 馴染んで来たよ。

辻村 練習しましたもん。

加賀 ポーズもだし、うちにも。

辻村 みんないい人ですから、楽しいです。

加賀 よかった。

辻村 俺も、よかったです。

加賀 楽しいのがいいよ。

辻村 はい。

加賀 みんな幸せるのが一番いいからね。

辻村 そうですね。

加賀 単純なのがいいよね。わかりやすくてき。

辻村 単純、ですか。

加賀 うん。辻村くんはどうしてうちを選んだの？

辻村 俺、八王子の悲劇を知って、調べて、それで。

加賀 苦しんでる人たちがいて、それを助けたいだけなんだよね。

政治とか、社会構造とか、そういうのは、ほら、よくわかんないから。

辻村 多分、俺も似たようなもんだと思います。

加賀 正義？

辻村 はい。

加賀 善。愛。吉。幸。正義。か。

辻村 加賀さん。

加賀 ん？

辻村 元気出してくださいね。

加賀 ……ありがとう。

辻村 いえ。

加賀 よし、今日は景気づけに、ぱーっと飲むか。

辻村 それがいいですよ。

加賀 辻村くんもきなよ。先輩が奢ってあげるから。

辻村 いや、悪いですよ。

加賀 遠慮すんなって。ほら、行くよ。

二人、去る。

神と蜷川だけが動き出す。

神 あ、帰る？

蜷川 そのつもりだけど。

神 帰ってからどっか行く？

蜷川 コンビニくらいは行くかもしれない。

神 鍵忘れた。

蜷川 開けとく。

神 あと、宅配便来るかも。

蜷川 わかった。おばさん？

神 うん。地元の野菜だって。

蜷川 まだ連絡取ってるんだな。

神 正義のヒーローやってるって言ってないからさあ。

蜷川 一人娘は大変だな。

神 お父さんいなくなって、わたしもってわけにはいかないから

さあ。

蜷川 夜飯、なにがいい？

神 鍋でもする？ 野菜使って。

蜷川 いいな、それ。

神 お肉と白滝、よろしく。

蜷川 あいよ。

蜷川、去る。

神 あ、駅前が特売なんだってさ！

神、去る。

財前と黒岩だけが動き出す。

黒岩 どうだ。

財前 いい感じですよ。

黒岩 どれ。

財前 どうですか？ 腕、よくなったと思いませんか？

黒岩 そうだな。表情がいい。

財前 ですよ！

黒岩 ラジオの時も思ったが、多分向いてるんだろうな。そういう

のが。

財前 どういうの？

黒岩 いい表情を引き出すのが。

財前 褒めたってなんも出ませんよ。

黒岩 いや、本心だよ。

財前 わたしなんてまだまだです。

黒岩 そうは思わないけどな。

財前 まだまだですよ。黒岩さんがいないとだめです。

黒岩 ……財前。

財前 アポの取り方だって滅茶苦茶だし、トランスク립ト起こす

のだって遅いし、企画の立て方だってわかんないし！

黒岩 まだ何も決まってるじゃない。心配したってしょうがない。

財前 ……本当ですか。

黒岩 本当だ。

財前 信じますよ。

黒岩 信じる。俺が嘘をついたことがあったか？

財前 ピスタチオは殻のまま食べるもんだって。

黒岩 ……。

財前 ……黒岩さん。

黒岩 ……（あとずさり）。

財前 黒岩さん。

黒岩 ……（あとずさり）。

財前 黒岩さん！

黒岩 ……（あとずさり）。

黒岩、去る。

財前 あのやろう！

財前、去る。

巣鴨、動き出す。

安西、やってくる。

安西 あの！

巣鴨 あれ、誰か出前頼んだ？

安西 あ、いいえ。帰ってくるのが見えたので。

巣鴨 そうか。

安西 はい。

巣鴨 ……。

安西 ……。

巣鴨 用があるんじゃないのか。

安西 あ、はい。あります。

巣鴨 加賀か？ それとも、神か？

安西 誰にとかってのじゃなくて。いま、お得先に挨拶して回って。

巣鴨 （察して）ああ…。

安西 今までご利用くださいませして、誠にありがとうございます。

巣鴨 いや、こちらこそ、ありがとうございます。おいしかったよ。

安西 その言葉だけで、救われます。

巣鴨 ……救ってほしいのか？

安西 え？

巣鴨 「助ける」と「救う」は違う。と、俺は常々思っている。

安西 違うんですか？

巣鴨 ああ。

安西 でも、大丈夫です。みんなで決めたことですから。

巣鴨 ……そうか。

安西 あ、でも、まだ営業してますから。最後までよろしく願い

巣鴨 します。

安西 いつまで？

安西 今月いっぱいです。

巣鴨 最終日に宴会でも開こうか。

安西 みなさんそう言ってくださいます。

巢鴨 よかったじゃないか。

安西 はい。わたしは、うちは、恵まれました。

巢鴨 なら、俺もよかった。

安西 ありがとうございます。安西さくらは、幸せです。

巢鴨 ……。

安西 おじいちゃんも、お父さんも、お母さんも、きつと。

巢鴨 ……。

安西 きつと。

巢鴨 ……そうか。

安西 それじゃあ、失礼します。

巢鴨 ああ。

安西、去る。

巢鴨 ……。

巢鴨、去る。

● 1 1 場

警報がけたたましく響き渡る。

蜷川と神、現れる。

神 なにこれ、警報？

蜷川 どうなってんだ！ おい、加賀！ 加賀！

加賀、現れる。

加賀 賊です！ 侵入警報！

辻村、現れる。

辻村 大丈夫ですか！

神 わたしは大丈夫。そっちは？

辻村 すぐにこっちに来たので。

蜷川 相手の人数はわかるのか。

加賀 すいません、ここからじゃ……。

辻村 どうします？

蜷川 まずは武器か。

神 物品庫の鍵は？

加賀 あります！

巢鴨 その必要はない。

巢鴨、現れる。

迫、巢鴨に引っ立てられて、

辻村 その人が？

巢鴨 ああ。侵入者のようだ。

蜷川 一人だけってことはありますか？

神 目的次第ですよ。

加賀 困かもしれませんが。見てきましょう。

辻村 あ、俺も行きます。

巢鴨 気を付けて行けよ。

加賀 はい。

加賀と辻村、去る。

蜷川 おい。

迫 ……。

蛭川 おい！
 迫 ……
 神 見たことありますか？
 巢鴨 いや、ないな。敵対組織……新しくできたところか？ その
 口ぶりだと、神、お前も。
 神 ないですね。
 蛭川 俺もありませんよ。恐らく加賀もいないでしょうね。
 神 辻村君も、当然……。
 巢鴨 恨みを買うようなことをした覚えはないけどな。
 迫 ふざけるな！ とぼけやがって！
 蛭川 喋れるのか。質問に答えてくれるんだろうな？
 迫 三下風情があたしを脅すってのかい！
 蛭川 俺がやります。いいですよ？
 巢鴨 落ち着け。
 蛭川 落ち着いてますって。
 神 仲間はあるの？ ここをどうやって知った？ 一般開放はし
 てないつもりなんだけど。
 迫 あたしたちを馬鹿にしないでもらいたいね。あんたらの居場
 所なんて、ちよいと調べりやすぐにわかるんだ。
 蛭川 あたしたち、ね。
 神 加賀に連絡します。
 巢鴨 ああ。
 神 (電話) 加賀？ 賊は一人じゃないみたい。具体的に、何人
 かまでは。うん。気を付けて。
 蛭川 何が目的だ？ 基地をいきなり襲撃だなんて、随分と手荒い
 な。そのくせ巢鴨さんにあっさりと捕まるなんて。
 迫 巢鴨……巢鴨、か。そうか。どうりで見たことがあると思っ
 た。
 巢鴨 光栄だな。
 迫 何も喋るつもりはない。

蛭川 その虚勢がいつまで持つかな。
 神 完全に悪役の台詞だけ。
 巢鴨 茶化すな。真面目なんだ。
 加賀と辻村、戻ってくる。
 加賀 戻りました。
 巢鴨 どうだ。
 加賀 入り口まで出て、外も少し覗いてみましたけど、変ですね。
 神 変？
 辻村 静かすぎるんですよ。
 加賀 そうです。仲間がいるなら不自然です。
 蛭川 姿を隠してるとってことはないか。
 辻村 そう簡単に見落とすとは思いませんけど。
 巢鴨 排気ダクト。排水溝。眼につかない経路はいくつもある。
 加賀 セキュリティは万全です。わたしに気づかれないように解除
 されたとは、どうにも。
 蛭川 じゃあ一人で？ 馬鹿か。
 神 こいつに見覚えある？
 加賀 ないです。
 辻村 俺も。
 加賀 正体がわかるものは。
 神 持っていない。
 辻村 そりゃそうですよね……。
 巢鴨 手がかりなし、だな。
 神 警察のデータベースに載ってない？
 蛭川 照会なんかできるわけねえだろ。
 神 そこは、ほら。
 加賀 ……やってみましょうか？
 蛭川 本気か？

加賀 はい。学校で少しはやりましたから。

巢鴨 やめておけ。

加賀 でも。

巢鴨 でも、じゃない。窮余の一策を講じるには早すぎる。

辻村 窮余？

蛭川 進退窮まってねえだろっつー話でさ。

加賀 ……わかりました。

巢鴨 とはいえ、緊急事態には違うない。指示を出さず。

四人 はい！

巢鴨 辻村は引き続き見回りにあたってくれ。どんな些細なことで

もしい、気がついたらすぐに報告しろ。

辻村 はい！

巢鴨 加賀はセキュリティを頼む。警戒レベルは最大だ。

加賀 はい！

巢鴨 こいつには蛭川と神の二人であたれ。

二人 はい！

巢鴨 多少手荒に扱っても構わんが、必要以上にきつくするな。例

え敵でも、俺たちは人権を最大限尊重する。

迫 ほざけ！

巢鴨 反応したな。どこにだ？

迫 ……はっ。

巢鴨 連れていけ。

神 わかりました。

蛭川 ほら、立て。立てってば。

神 巢鴨さんは？

巢鴨 俺は辻村と警備にあたる。

二人、迫を連れて去る。

巢鴨 加賀。

加賀 はい。

巢鴨 お前の申し出はありがたいが、それは本当に、どうしようも

なくなつた時だ。焦るんじゃない。

加賀 ……はい。

加賀、去ろうとする。

巢鴨 どこへいくんだ。

加賀 セキュリティ確認してきます。

加賀、去る。

辻村 こんなことになるとは思ってませんでした。

巢鴨 俺もだ。予想外だな。

辻村 巢鴨さんでも？

巢鴨 ああ。確かに倒すべき敵は沢山いる。が、こんな強硬手段を

取られたのは初めてだ。

辻村 見回りに行きますか？

巢鴨 ……。

辻村 どうしました？

巢鴨 いや、なんでもない…。

辻村 あの、

巢鴨 恨みを買うような覚えはない。

辻村 はあ。はい。

巢鴨 あるいは、逆恨みか。

辻村 覚えがありますか。

巢鴨 ……俺たちが有名になった事件。知ってるか。

辻村 八王子の悲劇？

巢鴨 ああ。いや、まさかな。

辻村 ……。
巢鴨 黒岩に連絡してみよう。

巢鴨、電話。

巢鴨 ……？

辻村 出ませんか。

巢鴨 ああ。

辻村 また後でかければいいじゃないですか。

巢鴨 ……嫌な予感がある。

辻村 当たる方ですか？

巢鴨 いや。

辻村 ……。

巢鴨 そうだな。とりあえず、見回りか。

辻村 ……。

巢鴨 行くぞ。

辻村 あ、はい。

二人、去る。

● 1 2 場

財前、現れる。

財前 お腹いっぱい眠くなってきましたませんか？ 「隠れた名店ぶらり旅」のコーナーは、なんと今日から、「財前晴香のトレンド探訪」と名前を変えてリスタート！ ついにわたし、冠番組を持ってしまいました！ いえい！ さて、気を取り直しまして、記念すべき第一回。今回は、もしかしたら聞いたことがあるかもしれません。全国展開もされている、変なも

の・不思議なものを集めた本屋さん！ 「チューズ・ワン」
横浜本店さんをお尋ねしたいと思います！

財前、去る。

蜷川と神、迫を連れて現れる。

蜷川 まあお前も強情な奴だよ。正直、そこにはな。そこにだけはな、感心してる。

迫 ……。

蜷川 でも、さすがに限界じゃないか。腹も減ったろう。

迫 ……。

蜷川 別にお前を殺そうってわけじゃないんだ。こっちの質問に答えてくれたら、すぐに開放……は難しいかもしれないけど、

うまい飯を食わせてやる。極力生活にも配慮しよう。

迫 ……。

蜷川 仲間もない。単身一人で乗り込んできた理由はなんだ。何が目的だ。俺たちに何の恨みがある。

迫 ……。

蜷川 答えろ！

神 落ち着いてよ。

安西、現れる。

安西、現れる。

安西、現れる。

安西 こんにちは。風来軒です。

蜷川 さんきゅう。

神 お金はそこにおいてあるからさ。勝手に持って行ってよ。

安西 ……え？

状況が飲み込めていない安西。

安西 ああ、神さん？

神 あ、大丈夫。平気だから。これも仕事でさ。いやんなっちゃう。

安西 そう、ですか。

神 そんなにびくびくしないですよ。

安西 警察関係、だったんですね。

神 違うよ。正義のヒーロー。

安西 はあ……。

岡持ちの中からカレーとかつ井が出てくる。

蜷川 どうだ、うまそうだろう。いい匂いがするなあ。腹が減った

なあ。これを……こうだ！

蜷川、カレーを食べる。

蜷川 ああうまい、うまい、うまい。ほうら、この匂いに耐えられ

ないだろう。さつさと吐いちまえば、そっちのかつ井はお前

迫

……。
腹が減っていると苛々するって言うしな。どうだ？

蜷川、迫の目の前にかつ井を差し出す。

二人の我慢比べ。

神 変な男でしょ。

安西 え？

神 蜷川さ。

安西 あはは……。

神 どうせ聞こえちゃいないよ。

安西 まあ、そうですね……。

神 へーくん。

安西 へーくん？

神 子供の頃の綽名。

安西 「変な」の「へー」？

神 凄！ よくわかったね。

安西 なんとなくです。

神 でも、いいやつなんだ。

安西 ……。

神 いいやつなんだよ。

安西 (神を見ながら) ……わかります。

蜷川、うまいうまいと言いながらカレーを食べている。

神 蜷川。

蜷川 なんだよ、俺なんもしてねえよ。

神 楽しい？

蜷川 楽しいとか楽しくないとかじゃねえだろ。

神 いや、まあ、そうなんだけどさ。

蜷川 一回くらいやりたかったんだよ。

神 ドラマの見すぎ。

蜷川 自覚はある。

神 あるんだ。

蜷川 あるある。

神 ふーん。

蜷川 (迫に) どうだ、吐く気になったか？

神 ……。

蜷川 だめだな。ちよつと別室連れていくわ。

神 わかった。気を付けてね。

蜷川 おう。

蜷川、迫を連れて去る。

神 今月いっぱいだったけ？

安西 あ、はい。

神 これからどうするの。

安西 調理師免許取って、本格的にそっちの道に進むか、それとも

普通に就職しようか。悩み中です。

神 またお店やんないの？

安西 難しいですねえ。

神 そっかあ。残念だなあ。杏仁豆腐。

安西 みなさん仰ってくださいます。

神 だっておいしかったですもん。

安西 レシピ教えましょうか？

神 いいの？

安西 何人かにはもう。

神 じゃあ教えてもらおうかな。

安西 加賀さんにも渡したんですけど、帰りにその足でスーパー寄

って、作ったみたいで。

神 計量できないのにな？

安西 冗談じゃなかったんですね。

神 ご飯は作れるんだけどね。

安西 でも、本当に人気で。

神 杏仁豆腐？

安西 おじいちゃんが考案して、お父さんとお母さんで完成させた、

いわゆるうちの歴史みたいな代物なんです。

神 **そうなんだ。**

安西 それが、なくなっちゃうんです。

神 泣くなよ。

安西 泣いてないですよ。

神 へらへらすんなよ。

安西 してないですよ。

神 どっちかにしろよ！

安西 ……なんですか。

神 なんでデモやんないの。

安西 なんて、って。

神 そんな暇がない？

安西 まあ、そうですね。

神 情熱もない？

安西 神さん。

神 みんなやってんじゃん。立ってんじゃん。プラカード持って

さあ。

安西 みんなじゃないと思いますけど。

神 道路拡張反対ってさあ。

安西 神さんには関係ないでしょう！

神 **嫌なら戦え！**

安西 ……。

神 ……戦うしかないんだ、そうでしょ、違う？ 自分が正しい

と思うなら、戦えるはずでしょ。正義は揺らがないもんでし

よ。

安西 そんなこと言われたって……！

神 土地がなくなつて、家がなくなつて、みんなの顔もだんだん

思い出せなくなつて、それから後悔したって遅いんだよ。

安西 後悔なんてしません。

神 この先の人生、レシピ書いた紙切れ一枚に縋って生きていく

つもりなの？

安西 ……。

安西、去る。

去り際、黒岩と鉢合わせる。

黒岩は手にA4サイズの封筒を持っている。

安西 あっ。

黒岩 すいません。

安西 ……。

黒岩 どうかしましたか？

安西 なんでもないです。

黒岩 今月で閉店なんですか？

安西 ええ、まあ。

黒岩 お力添えできなくてすみません。

安西 え？

黒岩 あの、ラジオの話。「隠れた名店を」の。ああいや、名前は変

わったんだっけか。

安西 ああ。

黒岩 地域の力になりたくって始めた番組なんですけどね。

安西 うちの場合は特殊ですから。

黒岩 立ち退き、結構多いらしいですね。

安西 らしいですね。うちは、タイミングが良かったと、家族は言

ってました。

黒岩 そうなんですか。

安西 祖父も年ですし。立ち退きに関しては、それなりの、まあ、

はい。出ましたんで。

黒岩 ああ、御引止めしてすみませんでした。

安西 いえ。それじゃあ。

安西、去る。

黒岩 巢鴨さんは？

神 司令室じゃない？

黒岩 わかった。

神 うん。

黒岩 (封筒を渡す) やる。

神 なにこれ。

黒岩 頼まれもの。

神 わたしでいいの？

黒岩 もう一部あるんだ。

神 ふうん。

黒岩 あいつの情報。調べてきた。

神 ……うそでしょ。昨日の今日じゃん。

黒岩 まあな。

神 凄い。

黒岩 代わりに頼みがある。

神 なに。

黒岩 俺はいない。

神 は？

黒岩 俺はいない。

神 何言ってるの。

黒岩 俺はいない。

神 わかったわかった。あんたはいない。

黒岩 じゃあちよつと、巢鴨さんのところ、行ってくる。

神 うん。

黒岩、去る。

神、封筒を開けて中を見る。

神 そういうことか。どうりで。

黒岩 聞こえてたでしょ。

神 まあね。

神、携帯電話で蜷川に連絡。

神 あ、蜷川。ちよつと戻ってこれる？ あいつ連れて。うん。
いや、ちよつとね。謝らなきゃいけないくて。

蜷川、迫を連れて現れる。

蜷川 どうしたんだ？

神 ごめんね。

蜷川 急になんだよ。

神 こいつ、わたしの関係者だ。

蜷川 え？

神 迫。迫祈。

蜷川 迫……！

迫 そうか、お前か！

迫、暴れ出す。

蜷川 くそ、なんだ、おい！ 暴れるな！

神 かたき討ち？

迫 かたき討ち？ よくもまあそんなことが言えたもんだ！

神 あれは不可抗力よ。

迫 人を殺して不可抗力で済むか！ 忘れたことはないぞ、あの

日！ 銀行で！

神 威嚇射撃のつもりだった。人質に跳弾が当たるとは思ってた

かった。

迫 だからなんだ？ だからお母さんは死んでもよかったって？

神 あんたらの言う正義のためなら、それも許されるって？

迫 だから一人で乗り込んできたの？

神 止められたけどな。

蜷川 仲間、か。

神 やばいかもね。

迫 抵抗しても無駄だぞ。居場所は割れている。逃がすもんか。

一人残らず逃がすもんか！

蜷川 神！ 巣鴨さんに報告してこい！

神 あんたは。

蜷川 俺は、

迫 お前ら全員ぶつ殺してやる！

蜷川 黙れ！ 俺はこいつをなんとかする！

神 わかった。

神、去る。

蜷川 こつちに来い！ 暴れるんじやねえ！

蜷川、暴れる迫を無理やり連れだす。

● 13場

静まり返った場に、財前、急ぎ足でやってくる。

財前 ……。

紙の束（封筒の中身のコピー）を見ている。

黒岩 蜷川ア？

黒岩、やってくる。

財前 はーい。

黒岩 ……
 財前 今思ってること当ててあげましょうか。
 黒岩 ……
 財前 ひとつ。「お前は蜷川じゃないだろ」
 黒岩 ……
 財前 ふたつ。「どうしてお前がここにいるんだ」
 黒岩 ……
 財前 どうです？ 正解でしょ。
 黒岩 ……
 財前 だめですよ。データベース開きっぱなしだし、検索履歴もそのまんまだし、ミスプリントは丸めてごみ箱だし。
 黒岩 ……
 財前 探偵に向いてますかね、わたし。
 黒岩 ……
 財前 黒岩さん。
 黒岩 ……
 財前 なんか喋ってくださいよ。
 黒岩 ……
 財前 あつてる、でも、間違ってる、でも。なんでもいいから。
 黒岩 ……
 財前 黒岩さん。
 黒岩 ……
 財前 黒岩さん！
 黒岩 ……
 財前 なんで飛ばされちゃうんですか！
 黒岩 ……
 財前 ふざけんな、なんだよ「財前晴香のトレンド探訪」って！
 黒岩 センスがねえよなあ。
 財前 ……本当、本当ですよ。
 黒岩 でも俺、「隠れた名店ぶらり旅」も、結構ダサイと思うぞ。

財前 それ考えたのわたしです。
 黒岩 センスがねえよなあ。
 財前 ばかにしてますね？
 黒岩 してない。
 財前 ……
 黒岩 してる。
 財前 そうです。
 黒岩 何をするにも、金が必要だからさ。
 財前 だから？
 黒岩 だから？
 財前 それだけ？
 黒岩 それだけって、金は大事だろ。
 財前 スポンサーついて、宣伝して、お金貰って。黒岩さん追い出してまで、やりたいことがそれって。
 黒岩 追い出されたんじゃねえよ。そういう記事、企画なら、俺はやりませんって。そう言ったのはこっちからだ。
 財前 わたしは？
 黒岩 知らねえよ。
 財前 置いてかないでくださいよ。
 黒岩 俺は地域に密着したりしてな、足で情報掴んでな、問題提起したり貢献したり、そういうのがしたかったんだよ。それがあべき姿だと思っただわ。
 財前 ここにいてもできるじゃないですか。
 黒岩 どうかなあ。
 財前 できますよ。
 黒岩 正しいと思えない上の下でやってても、きつだけだろ。
 財前 間違ってるんですか？
 黒岩 それは知らないけどさ。俺は正しいと思えないってだけ。
 財前 どっちが正しいとかどうだっていいじゃないですか！ だって、どうせみんな、自分が正しいと思ってるんですよ！

黒岩 ……。

財前 わたしにも、黒岩さんも。巢鴨さんも蜷川さんも神さんも加賀さんも辻村くんだった！

黒岩 そうだ。その通りだ。

財前 なら、そんなの、意味なんてないでしょう！

黒岩 ああ。

財前 黒岩さん！

黒岩 ……。

財前 黒岩さん。

黒岩 ……。

黒岩、去る。

財前 ……黒岩さん。

神、現れる。

神 ……お礼、言いそびれちゃったな。

財前 聞いてました？

神 あれだけ声を出してればね。

財前 そうですかね。

神 ……正義ってのはさ、揺るがないものじゃん。

財前 遠回りしてるようにしか見えないです。もつと近い道は沢山あつて、違いますか。そうじゃないんですか。わたし、間違

つてますか。

神 ……あんたが「ジャーナル新世界」の編集長にでもなれば？

財前 それ、いいですね。採用。

神 ありがとう。

財前 あの、迫さんは。

神 知ってるの？

財前 資料を。

神 確かに、あの眼は似てるかもしれないって思った。

財前 ……。

神 忘れたところに夢に出るんだよ。何も言わないで、ずっと、じ

つと、私をどっかから見てるだけの目がさ、視線がさ、うざ

つたくてさあ。

財前 ……。

神 蜷川には随分と迷惑をかけたね。

財前 ……。

神 迫警部補。

財前 ……。

神 私も恨まれたもんだ。

財前 見ちゃって、すいません。

神 そっちのほうがよかったでしょ。結果的に。

財前 です、かね。

神 巻き添え喰う前にさ。

財前 わたし、行きます。

神 道中、気をつけてね。

財前 はい。神さんも、お元気で。

財前、去る。

● 14場

蜷川、現れる。

蜷川 いま、財前とすれ違ったけど。

神 逃がした。

蜷川 賢明だな。

神 他のみんなは？

蜷川 多分、みんなもうすぐ来る。

神 わかった。

蜷川 あ、加賀はシャツター降ろしてから来るのかな。

神 じゃない？ 二人が出たから、いい頃合いでしょ。

蜷川 確かに。

神 あいつは？

蜷川 生かしておいても仕方ねえだろう？

神 それもそうか。

蜷川 おう。

パトカーのサイレンの音が響く。

蜷川 近いな。

神 うん。

辻村と巢鴨、現れる。

辻村 こっちは大丈夫です。

神 ありがとう。

巢鴨 二人はもう出たか。

神 はい。

蜷川 加賀は？

加賀 ここにいますよ。

加賀、現れる。

加賀 無線盗聴しました。囲まれていますね。

神 脱出経路は。

加賀 ばっちりです。もちろん。

巢鴨 ほとぼりが冷めたら、また、いつか。

神 はい。また、いつか。

蜷川 ひとまず、お疲れ様。

辻村 今までありがとうございました。

蜷川 今生の別れじゃねえよ。

辻村 はい。

加賀 自爆起動させました。あと十五分ですね。

巢鴨 最後に、いいか。

巢鴨、神妙に、

巢鴨 正義は必ず勝つ。

全員 ……はい！

全員、それぞれ去っていく。

暗転。ラジオだけが残っている。

ラジオからニュースが聞こえてくる。

ラジオ

警察は、昨日夕方、監視対象組織として認定されていた暴力的破壊活動団体、「全世界同時解放戦線」の強行捜査に

踏み切りました。構成員の巢鴨善、蜷川諭吉、神愛子、加

賀御幸、辻村正義の五名はいずれも行方が掴めておらず、

警察は非常線を敷いて現在も捜索が続けられています。…

…次のニュースです。

ゆつくりとラジオも闇に溶け込んで、幕。